

## 1 MICEを推進する意義

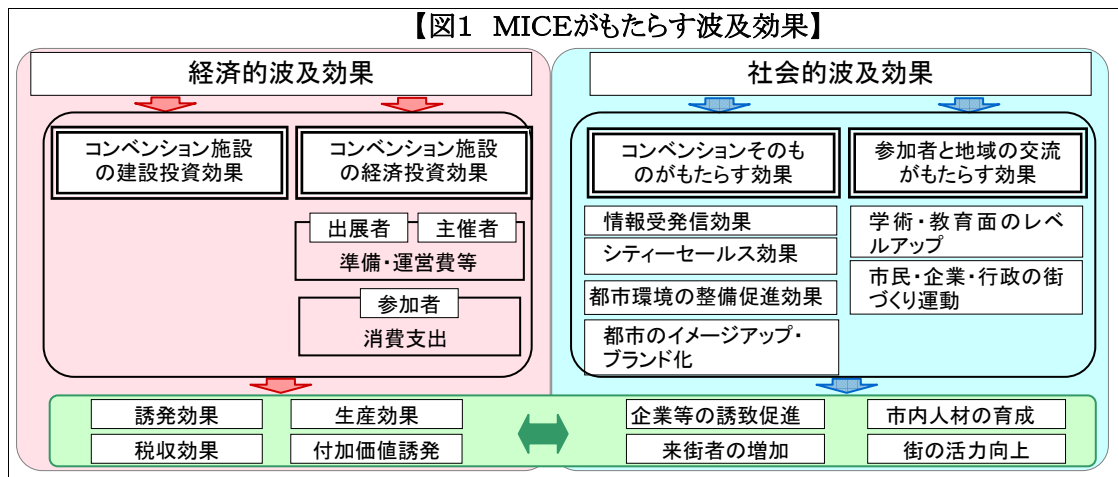
少子高齢化の進展による人口減少社会に向かう中、MICE推進により国内外からの交流人口を増加させることは、市内での消費の拡大や、ビジネスチャンスの創出などの社会的波及効果を生み出し、市内経済の活性化に貢献する。

### (1)横浜市における政策の中でのMICEの位置づけ

横浜市中期4か年計画において、観光・MICE 分野を横浜版成長戦略の一つとし、「MICEの拠点都市として国際的な地位を確立する」こととしている。

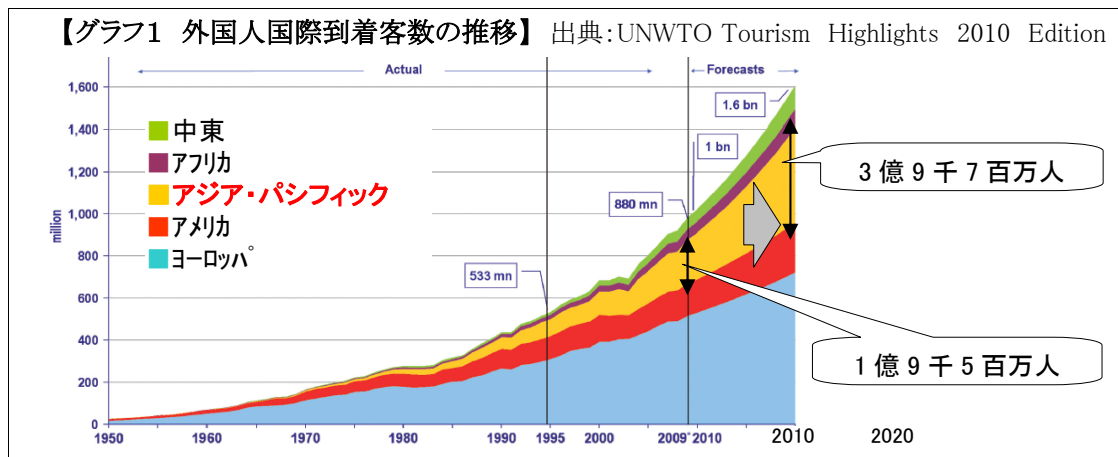
### (2)MICE開催による波及効果

「経済的波及効果」に加え、横浜の文化、産業、人材育成等「社会的波及効果」が期待出来る。



### (3)MICE市場の拡大

アジアでの外国人旅行客数(国際到着客数)が増加するとの予想から、アジア圏内における国際会議数についても2010年から2020年で「約2倍に増加」と推測される。

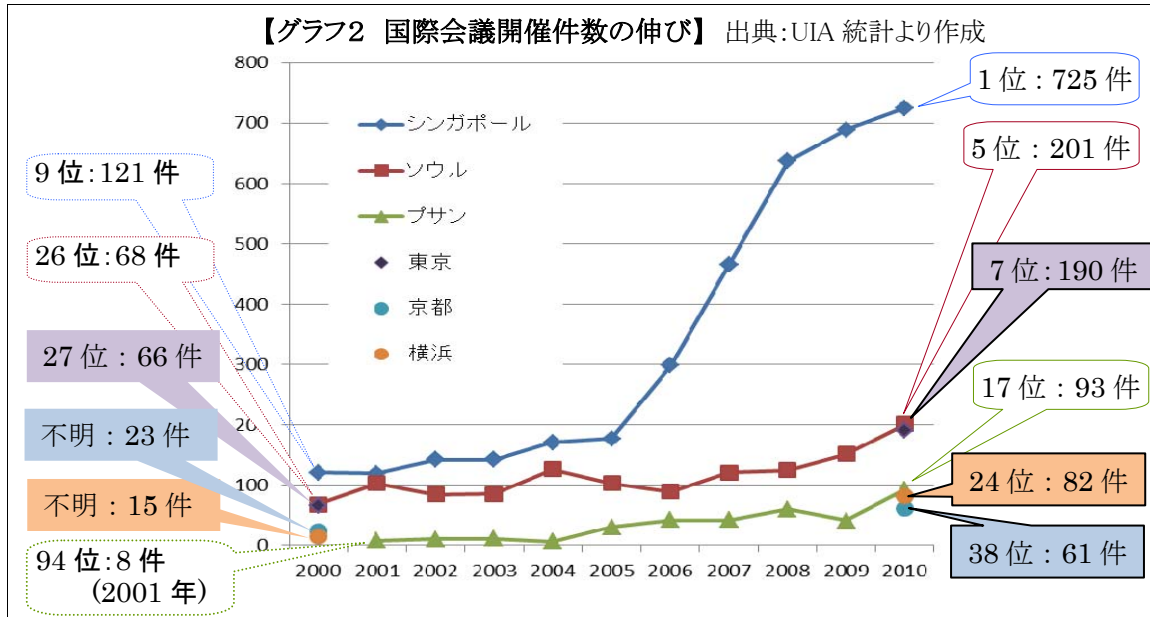


## 2 横浜MICEの置かれている現状と課題

台頭するアジア諸国で激化する競争に取り残されつつある。

### (1) 国内外におけるMICEの取組

シンガポール、韓国等、「アジア諸国」においては、MICEによる高い波及効果などに着目し、大規模の施設整備、低価格の賃料設定がされ、国際会議の開催件数も増加してきており、MICE開催都市としての地位を確立してきている。国内でも、MICE施設の拡充に向けた検討がされている。



【表1 他都市施設スペック】

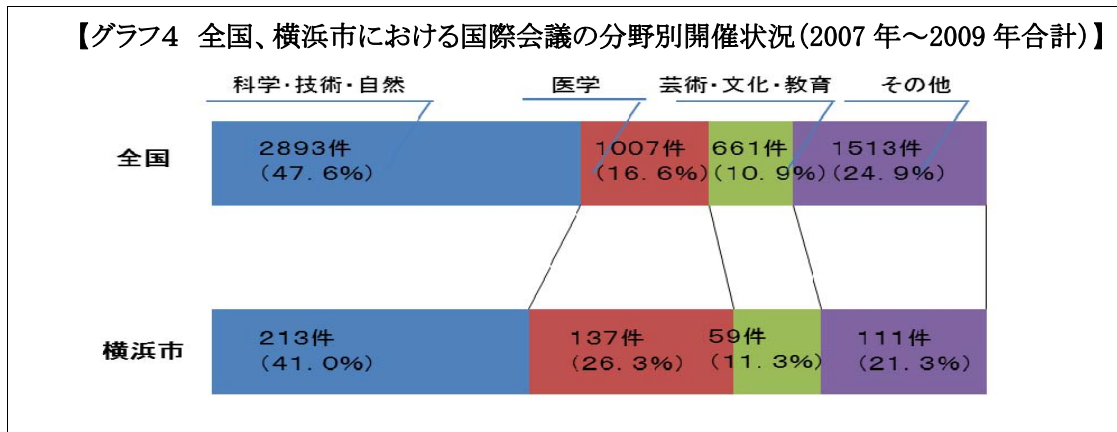
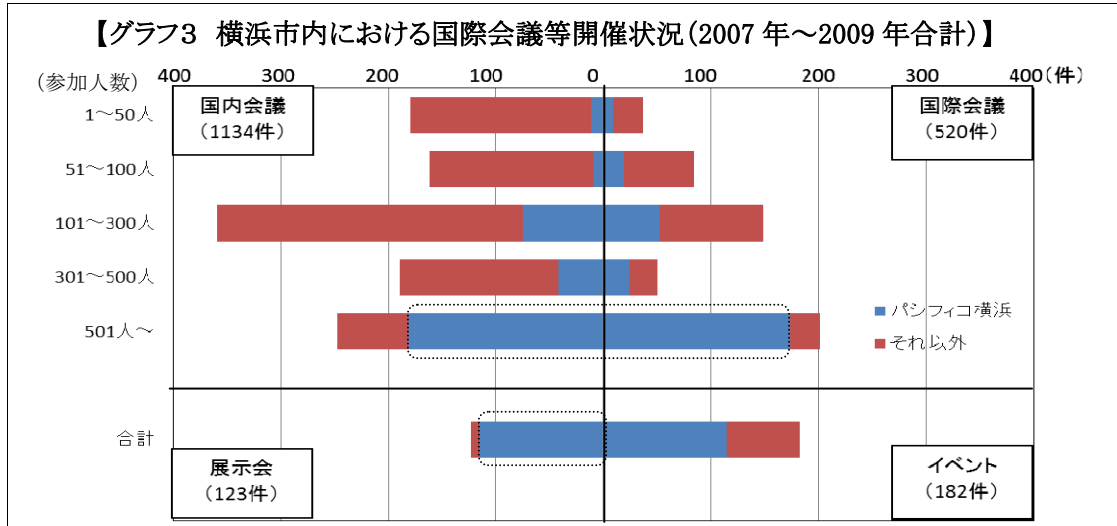
都市名・主要施設	展示場面積	最大規模会議場の収容人数
シンガポール		
シンガポール エキスポ	約 100,000 m <sup>2</sup>	約 8,000 人
サンテック シンガポール	約 23,000 m <sup>2</sup>	約 12,000 人
マリーナ ベイ サンズ	約 32,000 m <sup>2</sup>	約 11,000 人
ソウル コエックス(COEX)	約 36,000 m <sup>2</sup>	約 7,000 人
プサン ベクスコ(BEXCO)	約 27,000 m <sup>2</sup>	約 2,400 人
東京(23区)		
東京国際フォーラム	約 5,000 m <sup>2</sup>	約 5,000 人
東京ビッグサイト	約 81,000 m <sup>2</sup>	約 1,000 人
京都 国立京都国際会館	約 3,000 m <sup>2</sup>	約 1,800 人
横浜 パシフィコ横浜	約 20,000 m <sup>2</sup>	約 5,000 人

【表2 国内他都市拡充検討状況】

都市名等	検討状況
観光庁	国際会議施設等に係るPFI事業手法調査を平成24年度予算化(他の国際会議施設等へ裨益する事例となることを期待し、国立京都国際会館について調査するとしている)
東京都	
大田区	羽田空港跡地において最大4万7千m <sup>2</sup> 規模の国際展示場を建設方針
青海地区	臨海部の約3万6千m <sup>2</sup> の所有地で企業公募を中止し、国際会議場の誘致方針
その他にも福岡市などに新設・拡充計画あり	

## (2) 横浜市のMICE開催状況とその分析

横浜市内での開催された国際会議、501人以上の国際・国内会議及び展示会についてはパシフィコ横浜で開催されるシェアが大きく、頭打ちの状況。それ未満の小規模の国内会議については、パシフィコ横浜以外の施設の開催シェアが大きい。国際会議の分野については、「科学・技術・自然」及び「医学」の占める割合が多い。



グラフ3・4; 出典:2007～2009年データ  
JNTO(国際会議)、横浜観光コンベンションビューロー(国内会議・展示会・イベント)

## (3) 横浜市におけるMICE機能の現状と課題

横浜MICEの強みであるパシフィコ横浜の稼働率は限界に近く、アジア圏内における国際会議増加予測や大型バンケットの併設需要などの市場動向に対し「国際会議などの開催需要に応えきれていない」

【表3 MICE拠点“パシフィコ横浜”の実績と課題】

実績及び評価	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本有数のMICE施設。</li> <li>施設別国際会議開催件数、参加者数、医学系会議開催件数NO.1</li> <li>会議センター・展示ホール・ホテルが「ALL IN ONE」の使いやすさ</li> <li>開業20年の営業ノウハウ蓄積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率が限界に近いことによる機会損失</li> <li>大規模改修の時期を迎えている。</li> <li>大型レセプション・パーティーに対応できる空間がない。</li> <li>リピーターの開催規模拡大傾向</li> </ul>

### 3 MICE機能強化のあり方

#### (1) MICE機能強化の方針

「空港からのアクセスの良さ」や「パシフィコ横浜の ALL IN ONE の施設の特徴」や「医学系会議の開催件数全国 NO.1実績」を生かし、市の施策実現や波及効果が期待できる、ターゲットを明確に打ちだし、「不足している機能」と「新たな需要へ対応するための機能」拡充や、MICE開催都市を支える基盤整備や取組により都市の魅力づくりを行うことにより、『**質の高いMICE開催誘致**』を実現する。

【表4 MICE機能強化のための方針】

ターゲットの明確化	施設の機能拡充	都市の魅力づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学・バイオをはじめとするライフイノベーション、IT 関連</li> <li>・中・大規模の国際会議</li> <li>・既存の企業集積を活かしたMICEの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALL IN ONE の施設の充実</li> <li>・展示会と会議の同時開催への対応</li> <li>・大型レセプションへの対応</li> </ul>	<p>&lt; 基盤 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の回遊性を向上</li> <li>・まちづくりとの連携</li> <li>・質の高い人材育成</li> </ul> <p>&lt; 取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・芸術・エンターテインメントの取組 (トリエンナーレ、ダンス・ダンス・ダンス、音楽祭)</li> </ul>

#### MICE拠点づくりのあり方

利便性や規模メリットによる国際競争力確保のため、パシフィコ横浜の強みを活かした「配置」「用途・機能」「運営形態」による『**魅力あるMICE施設の機能拡充**』が必要。

国際競争力や企画力、提案力がある「運営主体」、公的資金の導入や官民連携手法などによる「経営の安定性・継続性」についての検討が必要。

#### (2) 取り組むべき方向性

以下の項目について、『市民理解』を得ながら、早急に取り組むことが必要

中長期的なMICE戦略の作成
国際MICEブランドを維持するための早急なMICE施設の機能拡充
誘致施策の強化
国際競争力の観点から、国と連携した取り組み

#### (3) 目標とするMICE開催都市像

MICE開催件数及び参加人数の増加 世界を牽引する「人・情報・技術」の交流・集積
「新たな需要創出・需要拡大」「ビジネス機会・イノベーション創出」 「都市の競争力・ブランド力・市民力向上」
「高付加価値・高品質なMICE開催都市」※

※「高付加価値・高品質なMICE開催都市」とは、

- 最先端の技術や情報を持ち、世界を牽引する人材が集積し、交流・融合している。
- 持続可能な横浜の発展・成長が実現。
- 安定した通年需要があり、まち全体で効果を享受している。
- 高い経済効果をもたらされている。